

各地の取り組み —愛知県における植物防疫業務—

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室 西本 浩之

■愛知県の農業の概要

愛知県は自動車などの製造業が盛んな一方、農業産出額も全国8位と全国有数の農業県でもある。温暖な気候と大消費地が近いという立地条件に恵まれて、秋冬野菜を中心とした、全国屈指の野菜産地となっている。また、施設栽培も盛んで、トマト、ナスなど野菜の他、特にキク、バラなど切り花類や洋ラン、シクラメンなど鉢物といった花きの産出額は全国一を誇っている。

■防除所の沿革

1952年に県内15か所に病虫害防除所が設置された。その後、統廃合が行われ、1986年に3か所となり、2002年に農業総合試験場内に病虫害防除室として1か所に統合され、現在、7名の職員が業務に当たっている。

■業務の内容

1 病虫害の発生予察

現在、18作物、のべ102種の病虫害について発生予察を行っている。巡回調査は196地点で実施しており、そのうち141地点は地域の農業改良普及課（農業改良普及センター）が調査を担当している。本県では、イネ害虫を対象とした予察灯を試験場を含め5か所、果樹カメムシ類を対象とした予察灯（水銀灯）を2か所設置している。また、フェロモントラップはダイズ、野菜、果樹及び花きの害虫を対象に試験場を含め52か所に設置している。試験場内の予察灯とフェロモントラップの回収・個体数集計は病虫害研究室が担当しており、その他の地域については、業務を委嘱した病虫害防除員が行っている。

この他、ムギ類赤かび病の発生状況調査、果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の越冬量調査及びヒノキの球果着生状況と口針鞘数調査、ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査を実施している。

2 病虫害に関する情報提供

発生予察調査で得られたデータを集計・解析し、毎月初めに病虫害発生予察情報を発表している。また、4～11月の15日前後に上旬の巡回調査等の結果に基づいた最新情報を発表している。注意報、特殊報の他にウンカ類やカメムシ類、ナシ黒星病など問題となる病虫害について技術情報を積極的に発信している。2019年度の発信数は、予報・その他情報が61、注意報が7、特殊報が3で、全国トップレベルの発信数を誇っている。ホームページ「あいち病虫害情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>)では、これらの情報の他に、予察灯やトラップのグラフデータ、最新版の「農業病虫害防除の手引」、主要な病虫害の生態と防除について解説した「病害

虫図鑑」やトピック的に病虫害を取り上げ、解説した「資料集」など様々な情報が満載である。毎月の閲覧数は2,000回以上で、2019年度1年間の総閲覧数は30,000回を超えている。



図 「あいち病虫害情報」のトップ画面

3 農薬登録拡大試験

愛知県は全国的に生産量が少ない、いわゆるマイナー作物の栽培が盛んである。シソとフキは全国1位、トウガンは全国2位の生産量で、他にミツバやバジルなどの野菜類、カエデやナンテンなどのつまもの類、さらにキクやミニバラなどの食用花類等、様々な種類のマイナー作物を施設で栽培している。マイナー作物は使用できる農薬が限られるため、農薬登録拡大に対する要望が高い。そのため、県ではマイナー作物の農薬登録に力を入れており、平成15年以降に445剤の試験を行い353剤が農薬登録された。本年は13剤の試験を予定しており、薬効薬害試験と作物残留試験の試料調製を行う。

■課題 今後の取り組み

今後も病虫害に関する情報を積極的に発信したいと考えている。年に数件、マスコミや農業団体等から病虫害図鑑に掲載した写真を使用したいという問合せをいただいている。非常に励みになる一方で、更新されていないため、情報が古く写真も鮮明さに欠けるものも見受けられる。新しい病虫害の情報を増やすとともに、内容や写真も更新して、さらに充実したものにしていきたいと考えている。